

# 大阪発 自転車で、いまどき天皇陵参拝。

高柳 淳一

## 【目的】

観光資源として天皇陵を今一度見直してみたい。京都・大阪・奈良には天皇陵が集中し、自転車を使えば効率よく巡ることが可能である。百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に向けた動きや、昨年11月に宮内庁から発表された天皇の「葬儀のあり方」に関する報道なども踏まえ、改めて、気軽に健康的な「自転車で巡るいまどき天皇陵参拝」をご提案する。

## 【内容】

世界的に見れば、エジプトのピラミッドや中国の始皇帝陵など「お墓」は立派な観光資源である。不遜にはならない範囲で、天皇陵をもっと観光地として活用できないだろうか？大阪には16、奈良には30、そして京都には69代分もの天皇陵が集中する。明治天皇の埋葬(伏見桃山御陵)以降、戦前には多くの参拝者が天皇陵を訪ね歩いた。もちろん当時とは「時代」が違うが、天皇陵を自転車観光という側面から捉えなおしてみた。電車やレンタサイクルも利用する畿内10コースを提案したいが、今回は大阪府内16カ所を自転車のみで巡るコースを紹介する。また、実際の移動距離、時間なども示しつつ、それぞれの陵墓の特徴を整理しながら、観光資源としての天皇陵および自転車観光の今後の課題も抽出してみた。

## 【結果】

大阪発の自転車による天皇陵参拝を推奨するには、今後、少なくとも次のような課題を解決していきたいところである。

### (1) 天皇陵自体の魅力発信

仁徳陵など巨大古墳を除けば、天皇陵の場所も歴史もあまり意識されていない。仮に百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録された場合、拝所から広大な緑を拝むだけでは「残念な世界遺産」になりかねない。不遜にはならない範囲で、思い切って「パワースポット」と位置づけたり、イメージキャラを設けるくらいの分かりやすい「情報発信」があってもよいのではないか。

### (2) 自転車道など環境の整備

大阪府内の天皇陵参拝に非常に便利な「南河内サイクリングロード」を軸として、長期的には、他の大規模自転車道と接続し、自転車道の回遊性を高めていきたいところ。また、大阪市内のレンタサイクル事情も改善の余地は大きい。

### (3) 民間の取組み(きっかけづくり)

沿線に多くの天皇陵を抱える鉄道会社が先駆けて、企画乗車券(レンタサイクル割引券付)を商品化するなど旅客誘致に努めるのも一手。世界一の自転車部品メーカー「シマノ」や自転車メーカーでもある「Panasonic」など、多くの企業が事業活動の一環として「大阪発自転車ツーリズム」を推進できればなお面白い。

## 1. 畿内の天皇陵

現天皇陛下は第 125 代目。よって、世には 124 代に渡る天皇陵が存在する。ただし、重祚(ちょうそ 2 度天皇に即位)された天皇や、京都の深草北陵や泉湧寺・月輪陵のように複数が祀られる天皇陵もある。

### ●都府県別 天皇陵の分布 ※重祚(ちょうそ)された天皇、北朝 5 代の天皇は除く

都府県	天皇(数字は第○代)	計
奈良県	1~13、20、23、25、28、29、32、34、37、40~45、48、49、51、96	30
大阪府	14~19、21、22、24、26、27、30、31、33、36、97	16
京都府	38、50、52~74、76~80、82~95、98~122	69
滋賀県	39 弘文天皇	1
兵庫県	47 淳仁天皇	1
香川県	75 崇徳天皇	1
山口県	81 安徳天皇	1
東京都	123、124 大正天皇、昭和天皇	2

奈良県や京都府に多くの天皇陵が存在していることは納得だが、大阪府内に 16 の天皇陵が存在している事実はあまり認識されていないのではないか。

### ●大阪府内の天皇陵

御代	天皇	陵墓名	場所
第 14 代	仲哀天皇	惠我長野西陵	藤井寺市藤井寺 4 丁目
15	応神天皇	惠我藻伏崗陵	羽曳野市誉田 6 丁目
16	仁徳天皇	百舌鳥耳原中陵	堺市堺区大仙町
17	履中天皇	百舌鳥耳原南陵	堺市西区石津ヶ丘
18	反正天皇	百舌鳥耳原北陵	堺市堺区北三国ヶ丘町 2 丁目
19	允恭天皇	惠我長野北陵	藤井寺市国府 1 丁目
21	雄略天皇	丹比高鷲原陵	羽曳野市島泉 8 丁目
22	清寧天皇	河内坂門原陵	羽曳野市西浦 6 丁目
24	仁賢天皇	埴生坂本陵	藤井寺市青山 3 丁目
26	継体天皇	三嶋藍野陵	茨木市太田 3 丁目
27	安閑天皇	古市高屋丘陵	羽曳野市古市 5 丁目
30	敏達天皇	河内磯長中尾陵	南河内郡太子町大字太子
31	用明天皇	河内磯長原陵	南河内郡太子町大字春日
33	推古天皇	磯長山田陵	南河内郡太子町大字山田
36	孝徳天皇	大阪磯長陵	南河内郡太子町大字山田
97	後村上天皇	檜尾陵	河内長野市寺元 観心寺内

仁徳陵や応神陵のような巨大古墳が集まる百舌鳥・古市古墳群だけでなく、特に蘇我氏系の天皇陵が太子町の磯長谷(しながたに)に分布。また、茨城市太田には越前出身で異色の天皇・継体陵(高槻市の今城塚古墳が真の御陵とも)が存在するとともに、河内長野市の観心寺(金堂は大阪府下最古級の国宝建築物)内には、南朝の後村上天皇(後醍醐天皇の息子)陵が立地している。

## 2. 天皇陵の変遷

- 天皇が大王と呼ばれていた古墳時代 巨大な前方後円墳が主体
- ⇒7世紀 大陸の政治システムの影響を受け大型の方墳、円墳へと変化
- ⇒奈良時代から平安時代初頭 天皇陵は、土葬される例や、墳丘の事例
- ⇒平安期は仏教思想の影響により、火葬の導入(持統天皇)や薄葬も
- ⇒院政期の白河天皇にいたって仏式の堂に納骨する方式に
- ⇒江戸時代の後水尾天皇以降は代々京都泉涌寺に陵墓が建立
- ⇒明治天皇陵 天智天皇陵に範を取ったとされる上円下方墳が採用
- ⇒大正天皇以後、天皇・皇后の陵は東京都八王子市の御料地内に

### ※平成 25 年 11 月 14 日 宮内庁発表

現天皇陛下について、自らの陵の形状や儀式については「従来どおり」(大正、昭和天皇と同じく「上円下方墳」、東京多摩にある武蔵陵墓地に埋葬)とし、葬儀は「火葬」という発表が宮内庁からなされた。

天皇の火葬は 1617 年の後陽成帝の葬儀以来となる。

## 3. 天皇陵参拝の実態

昭和初期、天皇陵を訪れる参拝者は増え続けた(昭和 2 年度 3,642 千人⇒昭和 13 年度 13,647 千人～昭和 14 年発行「皇陵を中心とする資料展記念録」)。京阪電車でも沿線にある伏見桃山陵をはじめ、大正～昭和初期にかけては多くの参拝客で賑わったとされる。右は昭和初期に発行された「皇陵巡拝の栞」。



## 4. 自転車で行く大阪府内のモデルコース(例)

～起点はあべのハルカス付近から計測

### (1) 百舌鳥古墳群コース

天皇陵は 3 ヲ所(16 代・仁徳陵、17 代・履中陵、18 代・反正陵)。また、「いたすけ古墳」や「御廟山古墳」を巡る。

・距離(起点から往復)	26.5 キロメートル
・時間(うち参拝時間)	約 2 時間(40 分)
・消費カロリー(成人男性)	680 キロカロリー

### (2) 古市古墳群コース

天皇陵は 7 ヲ所(14 代・仲哀陵、15 代・応神陵、19 代・允恭陵、21 代・雄略陵、22 代・清寧陵、24 代・仁賢陵、27 代・安閑陵)。誉田八幡宮や日本武尊陵も巡る。

・距離(起点から往復)	41.5 キロメートル
・時間(うち参拝時間)	約 3 時間(60 分)
・消費カロリー(成人男性)	1,060 キロカロリー

### (3) 磯長谷古墳群コース

天皇陵は 4 ヲ所(30 代・敏達陵、31 代・用明陵、33 代・推古陵、36 代・孝徳陵)。これに聖徳太子廟(叡福寺)、大阪府立近つ飛鳥博物館も加え、太子町の長閑な丘陵地帯を巡る。アップダウンはあるが、おススメ！

・距離(起点から往復)	59.5 キロメートル
・時間(うち参拝時間)	約 4 時間(110 分)
・消費カロリー(成人男性)	1,530 キロカロリー

## 5. 自転車利用にあたって

### (1) 大規模自転車道

南河内地区に点在する天皇陵参拝に最も便利なのが、「南河内サイクルライン」(距離 21.1km)。天皇陵参拝のための「参拝ロード」とでも名付けたい。大阪市内から継体天皇陵に向かうには「北大阪サイクルライン」も便利。このほか「なにわ自転車道」「北河内サイクルライン」の2つが国土交通省の定める大規模自転車道だが、回遊性を向上させるため大阪市内を縦断する自転車道を整備できれば、府内全域で大きく自転車ツーリズムに寄与することになるのではないかな。

### (2) レンタサイクル事情

天皇陵最寄りの駅前にレンタサイクル店はあるが、アップダウンを苦にせず移動できるスポーツサイクルを貸し出す店は稀。自転車のまち「堺」では堺観光協会が市内で観光案内所を運営。各案内所では様々な種類の自転車の貸出も行っており、低額で利用できる。このような取り組みが、大阪市内も含めた地域で浸透していけば、レンタサイクル事情も大きく変わってくる可能性がある。

## 6. まとめ

天皇陵参拝という一見お堅いテーマだが、自転車というアイテムと組み合わせることで、天皇陵の魅力を再発見し、より一層気軽で健康的な「いまどき参拝」が可能になるのではないかな。そのためには、思わず自転車で巡ってみたいくなるような、

- ・ 天皇陵自体の魅力の発信
- ・ 自転車道など環境の整備
- ・ 民間事業者の取組み(きっかけづくり)

を組み合わせることで、大阪発 自転車観光のテーマのひとつとして「追い風」が吹いてくれればと考える。

以上

### <参考文献>

- ・ 歴代天皇総覧(中公新書 笠原英彦著)
- ・ 天皇陵の誕生(祥伝社 外池昇著)
- ・ 天皇陵古墳への招待(筑摩選書 森浩一著)
- ・ 天皇陵の謎(文春新書 矢澤高太郎)
- ・ 明治天皇大喪儀写真(新潮社 橋爪紳也監修・解説)
- ・ 天皇と葬儀日本人の死生観(新潮選書 井上亮著)
- ・ 歴史の中の天皇(岩波新書 吉田孝著)
- ・ 別冊歴史読本図説天皇陵(新人物往来社)
- ・ 天皇陵総覧(新風社 北島静波著)
- ・ 大阪アースダイバー(講談社 中沢新一著)
- ・ 地図で分かる天皇家の謎(宝島社)
- ・ とんでもなく面白い「古事記」(PHP文庫 斎藤英喜著)
- ・ B S M日本の観光が変わる自転車活用術(笠倉出版社) ほかに

